

//////////////////////////////////// 原稿募集 ////////////////////////////////////// 「鉄と鋼」特集号 //////////////////////////////////////

製鉄プロセスにおける現象とモデル化

原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金) 締切日厳守

平成 4 年 7 月号 (第 78 年第 7 号) に上記特集号を企画しております。ここ数年、国内の好景気に支えられ、我が国の粗鋼生産量も 1 億 t を超える高生産が続いております。しかし、一方では、劣質資源の活用、省エネルギーも含めた CO₂ 削減技術等、将来型プロセスの開発に期待がよせられています。

最近の製鉄プロセスにおける研究状況を概観しますと、原料分野においては、焼結機操業の歩留り向上、低品質原料の使用可能な焼結法や新塊成化法の開発、コークスの分野では、乾留反応の制御法、一般炭の使用技術、高炉においては、新装入物分布制御法、微粉炭多量吹込み、AI や数学的モデルによる操業管理などに長足の進歩がみられます。また、基礎的研究としては、シンターケーキ構造の研究、高炉下部の移動現象論的研究、新プロセスに関連して、熔融還元法や酸素高炉法、成型炭製造技術など大型のプロセス開発の研究も実施されています。

本特集号においては原料、コークス、高炉製鉄法、ならびに、開発が進められている将来の製鉄技術に関連して基礎科学的、および、応用技術的研究を幅広く募集いたします。論文等多数の御投稿をお待ちしております。

1. 原稿締切日 平成 3 年 11 月 8 日 (金)
2. 発行 「鉄と鋼」 Vol. 78 No. 7 (平成 4 年 7 月号)
3. 原稿枚数 論文刷り上がり 8 ページ以内
(表、図、写真を含めて本会原稿用紙 40 枚以内)
(注)・原稿は本会投稿規程に基づいて執筆して下さい。
・投稿された論文は和文誌分科会において審査されます。

4. 問合せ・原稿送付先

〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

(社)日本鉄鋼協会 編集・業務室 和文誌特集号係 (担当: 坂井) 電話 03-3279-6021(代)

(注) 投稿時、原稿表紙に「製鉄特集号」と朱書して下さい。

☆☆☆☆☆☆☆☆

鉄鋼技術情報センター

鉄鋼技術情報センター新着図書

下記資料の照会先: 鉄鋼技術情報センター
電話 03-3241-1228

書 名	著者・編集者名	出版年	頁数
金属・無機・高分子材料 (第 9 集)	科学技術広報財団	1991	1191
世界の排煙浄化技術	石炭技術研究所	1990	326
工場情報化事典 計画編 CIM 技術体系	フジ・テクノシステム	1990	575
鉄鋼年鑑 平成 2 年度版 (鉄鋼メーカー役員名簿 1990 年付)	鉄鋼新聞社	1990	755
保全技術の進歩と将来 (第 136・137 回西山記念技術講座)	日本鉄鋼協会	1991	277
幕末明治製鉄論	大橋周治	1991	524
耐火煉瓦の歴史—セラミック史の一面—	竹内清和	1990	196
溶接・接合便覧	溶接学会	1990	1496

ISO 幹事国活動

1. 国際規格発行に関する進捗状況

- (1) DIS が登録されたもの: 1 件
DIS 6935-3 (SC 16): 鉄筋用鋼-溶接金網

2. ISO 中央事務局関係

IEC/ISO 長期計画特別グループ (LRPG) の勧告への対応; 中央事務局より LRPG の勧告の中下記につき TC 17 として具体策の検討依頼があった。
I-9 人工臓器への合成材料、素材の適用; 本年 6 月 1 日までに取りまとめることを要請されている。

3. TC 17 (鉄鋼) 関係

- (1) 鉄鋼 ISO 運営委員会: 3 月 19 日 (火) 山本委員長以下 18 名
ISO 事務局の平成 2 年度決算の承認を主議題とし

て審議された。

(2) ISO 事務局活動報告会: 2 月 27 日 (水)

日本鉄鋼協会“ISO 分担金”の拠出をお願いしている 41 社の会員各位に対し、ISO 事務局の過去 1 年間の業務実績及び来年度の業務計画の報告を行った。

(3) アニュアルレポート: 1990 年の TC 17 アニュアルレポートを作成し配布した。

(4) Technical Board (3 月開催予定) において、「欧州統一規格作成に起因する ISO 規格作成の遅延への対策」の議題の中で TC 17/SC 9 が取り上げられるとの連絡があった。従って、TC 17 Secretariat として SC 9 の作業の遅れは主として SC 9/WG 4 での検討の遅れに起因するとのコメントを JISC (工技院) を通して提出した。

4. TC 17/SC 1 (化学成分分析) 関係

(1) 第 100 回 SC 1 分科会・第 40 回 SC 1 諮問部会開催 (1991.2.28, 於: 新日鉄・新山谷寮)

1) 各 WG 活動に対する日本コメントの討議

WG 12, 17, 18, 20, 21, 22, 25, 26, 28, 29, 30, 31

2) ISO 規格 5 年見直し案件の検討

3) DIS 10697-1 (酸可溶性カルシウム-原子吸光法)

投票に対する日本回答案文の検討

5. TC 67/SC 5 (油井管) 関係

第 1 回 TC 67/SC 5 会議の準備状況

(1) Draft agenda を中央事務局に送付し、TC 67/SC 5 の P 及び O メンバーへの正式配布を要請した。

(2) TC 67/SC 5 への参加国は最終的に下記の通り。

P-メンバー: ブラジル, チェコ, フランス, ドイツ, イタリア, 日本, オランダ, ノルウェー, 英国, 米国

O-メンバー: オーストリア, バルバドス, エジプト, ポーランド, スウェーデン

(3) 会議への参加を確認するため、P 及び O メンバーに Registration form を配布した。

6. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)

(1) TC 17/SC 20 (出荷条件)

1991 年 4 月 24~26 日, ケルン

(2) TC 17/SC 19 (鋼管)

1991 年 6 月 5~7 日, ミラノ

(3) TC 17/SC 4 (特殊鋼)

1991 年 6 月 17~21 日, デュッセルドルフ

(4) TC 67/SC 5 (油井管)

1991 年 6 月 4 日, サンディエゴ

☆☆☆☆☆☆☆☆

会議ダイジェスト

理事会・評議員会

・第 7 回理事会・第 2 回評議員会

開催日: 2 月 20 日

出席者: 森田会長, ほか 30 名。

1. 平成 2 年度事業報告, 収支決算ならびに財産目録
2. 平成 3 年度事業計画, 収支予算
3. 次期役員, 監事, 評議員候補者推薦
4. 名誉会員推挙
5. 平成 3 年度 渡辺義介, 西山, 服部, 香村, 渡辺三郎, 野呂, 渡辺義介記念, 西山記念, 各賞受賞者決定
6. 「鉄と鋼」分冊及び欧文技術誌発行
7. 講演大会参加費徴収
8. 企画委員解嘱委嘱
9. 国際会議組織委員長選任
10. 鉄鋼研究振興助成金選考委員会委員長選任

・第 1 回鉄鋼研究振興助成金選考委員会

開催日: 3 月 15 日

出席者: 北村委員長, ほか 18 名。

1. 委員会発足について
2. 委員長挨拶
3. 委員・幹事紹介
4. 委員会の運営について
 - (1) 準備会報告
 - (2) 研究テーマの審査方法
 - (3) 研究テーマ採用件数
5. 鉄鋼研究振興資金による研究助成テーマの募集 (案) 審議

編集委員会

・第 1 回編集委員会

開催日: 3 月 15 日

出席者: 南雲委員長, ほか 10 名。

1. 編集委員解嘱・委嘱案が次の通り報告された。解嘱: 中岡一秀君 (NKK), 委嘱: 下村隆良君 (NKK), 広川吉之助君 (東北大), 村山武昭君 (九大)。
2. 講演大会参加費, 「鉄と鋼」分冊, Supplement 発行に関する理事会報告があった。
3. 機械翻訳について検討小委員会委員

長より経過報告があった。今後は、この方法を有効利用するための具体的策につき検討を進めていくことになった。

4. 平成 3 年度依・澤村両論文賞候補論文グループ分け及び選考小委員会構成案が承認された。

5. 任期満了の南雲委員長, 雀部和文会誌分科会主査, 大河内同幹事より挨拶があった。

・第 1 回和文会誌分科会

開催日: 3 月 1 日

出席者: 南雲委員長, ほか 21 名。

1. 10 件の論文審査報告がなされ, 掲載決定 2 件, 照会后掲載可 6 件, 修正依頼 1 件, その他 1 件であった。
2. 「鉄と鋼」第 77 年第 7 号 (7 月号)「表面処理」特集号の目次が報告された。
3. 解説等, 5 件の執筆依頼を決定した。
4. 投稿寄書の定義について内規の見直しを行った。
5. 「ISIJ 情報ネットワーク」の掲載記事について検討し, 記事の定義を整理した。
6. 平成 4 年度の特集号について。